

編集後記

<高木 国夫>

本誌は、消化管疾患では、従来から悪性疾患を中心に扱ってきたが、今回は少し趣を変えて、日常診療で見いだされても、簡単に扱われる傾向にあった消化管の憩室について特集を試みた。特にわが国の憩室の特徴、十二指腸および大腸の憩室の新しい見方、さらに憩室様病変をも加えて詳細な検討がなされている。座談会は、宮城先生を迎えて、憩室症の意義を討論していただいた。

消化器疾患について、従来から欧米の報告に基づいて研究がなされてきたが、早期胃癌に始まり、X線、内視鏡検査に基づいてわが国独特の検討がなされるべきであり、現在なされているが、憩室の特集もかかる意味で、さらに解明が必要であろう。

症例はすべて胃疾患であるが、診断の進歩した現在においてなお、示唆に富む報告が、すぐれた写真と共に発表されており、日常診断の糧になるものと信じている。

<編集> 早期胃癌研究会